

## アジア8カ国の大学生が、フィールドワークを通じ生物多様性について学びます 第6回「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を日本にて開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也）は、8月1日（火）より6日間、第6回「アジア学生交流環境フォーラム（Asian Students Environment Platform、以下、ASEP）」を日本にて開催します。

当財団は、環境分野において、グローバルなステージで活躍する人材育成に取り組んでおり、重要な事業活動のひとつとして位置付けています。2012年にスタートした本フォーラムは、毎年1カ国1大学を加えながら実施しており、本年は、タイのチュラロンコン大学を迎え、8カ国8大学64名の大学生が「生物多様性と再生」というテーマのもと、東北の被災地を中心にフィールドワークを行います。

宮城県では、当財団が昨年より海岸防災林再生に向けて植樹活動を実施している亘理町で、震災を経験した高校生・大学生とともに植樹を行います。また、東北大学災害科学国際研究所においては、史料保全修復体験と減災について学びます。さらに、省エネ・節電、地域と連携した防災、生物多様性等に配慮した次世代エコストア「スマートイオン」店舗のひとつ（イオンモール幕張新都心）を視察します。期間中のフィールドワークを通じ、被災地が抱える環境や生態系の問題を考えるとともに、防災や災害後の地域再生についての理解を深め、「生物多様性と再生」について提言を行います。

当財団は、今後もいのちあふれる美しい自然を次代に引き継ぐため、環境教育をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

### 記

1. 開催日程：8月1日（火）～8月6日（日）
2. 開催場所：東京都・宮城県・千葉県
3. 主催：公益財団法人イオン環境財団
4. 協力：早稲田大学・神田外語大学
5. 参加校：王立プノンペン大学（カンボジア）・清華大学（中国）・インドネシア大学（インドネシア）  
（国名アルファベット順） 早稲田大学（日本）・高麗大学校（韓国）・マラヤ大学（マレーシア）  
 チュラロンコン大学（タイ）・ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）
6. 後援：外務省・国連生物多様性の10年日本委員会  
 東北大学災害科学国際研究所・東北大学環境科学研究所  
 毎日新聞社・中国青年報・朝鮮日報社・トイチェ社
7. 出席者（予定）
 

開講式：	在日本国カンボジア王国大使館 早稲田大学 公益財団法人イオン環境財団 イオン株式会社	特命全権大使 総長 理事長 代表執行役社長	チア・キムター閣下 鎌田 薫 様 岡田 卓也 岡田 元也
閉講式：	早稲田大学 公益財団法人イオン環境財団 イオン株式会社	副総長 専務理事 取締役会議長	橋本 周司 様 林 直樹 横尾 博
8. 主なプログラム：
 

8月1日（火）	次世代エコストア「スマートイオン」視察（イオンモール幕張新都心）
8月2日（水）	開講式（早稲田大学 大隈記念講堂）
8月3日（木）	カキ養殖場視察（南三陸町）、森の学校視察（東松島市）
8月4日（金）	植樹活動（亘理町）、東北大学災害科学国際研究所フィールドワーク、専門家による講義（仙台市）
8月5日（土）	日本の伝統・文化鑑賞
8月6日（日）	成果発表・閉講式（神田外語大学）

以上

ご参考

＜2012年～2016年 ASEPの活動について＞



第1回 2012年(日本)  
テーマ:「文化から環境を考える」  
中国、日本、韓国の3カ国60名が参加



第2回 2013年(韓国)  
テーマ:「環境と人間」  
中国、日本、韓国、ベトナムの4カ国79名が参加



第3回 2014年(中国)  
テーマ:「水と人」  
中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの5カ国80名が参加



第4回 2015年(ベトナム)  
テーマ:「生物多様性と人」  
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの6カ国72名が参加



第5回 2016年(日本)  
テーマ:「生物多様性と叡智(えいち)」  
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、  
インドネシアの7カ国84名が参加

## <イオンの東北地方における取組みについて>

### 【公益財団法人イオン環境財団】

#### ■植樹

##### ・秋田県下浜海岸植樹（2005年～2009年）

秋田県の日本海沿岸の松林は酸性雨、松食い虫の被害にあい、大部分が立ち枯れ状態にあり、防砂林を復元するため、5年間でボランティアの皆さま4,300名とともに42,250本を植えました。2007年の植樹には、当財団の15周年記念式典にてご講演いただいた、ノーベル平和賞受賞者であり、元ケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ女史にもご参加いただきました。



2016年 宮城県亶理町植樹

##### ・山形県南陽市植樹（2010年～2012年）

松くい虫被害などで荒れた森林を再生させるため、2010年から3年間で実施。ボランティアの皆さま1,000名とともに5,100本を植えました。

##### ・宮城県石巻市植樹（2012年）

1,600名のボランティアの皆さまとともに、東日本大震災での津波被害を受けた上釜ふれあい広場にて植樹活動を実施。地域に自生する苗木15,000本を植えました。

##### ・宮城県亶理町植樹（2016年）

東日本大震災での津波により流失した海岸防災林の再生を目指し、宮城県が推進する「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に賛同し3年計画にて実施。初年度となる昨年は、ボランティアの皆さま1,100名が震災後に同町で採種・育成したコナラやヤマザクラなど13,000本を植えました。

#### ■顕彰事業

##### ・生物多様性日本アワード（国内賞）

2009年に「生物多様性の保全と持続可能な利用の促進」を目的に、「生物多様性日本アワード」を創設。隔年で国内の優れた取り組みを顕彰しています。

#### 《宮城県内の受賞団体》

- |                        |        |        |
|------------------------|--------|--------|
| ・日本雁を保護する会             | （2011年 | グランプリ） |
| ・有限会社熊谷産業              | （2011年 | 優秀賞）   |
| ・特定非営利活動法人田んぼ          | （2013年 | グランプリ） |
| ・ネイチャー・テクノロジー研究会（東北大学） | （2013年 | 優秀賞）   |
| ・気仙沼市立大谷中学校            | （2015年 | 優秀賞）   |



気仙沼市立大谷中学校

#### ■環境活動助成事業

当財団は、世界各地で、生物多様性の保全とその持続可能な利用のために活動する団体に対して助成を行っています。※（ ）内は助成期間

#### 《東北地方での活動における助成団体》

- |                            |              |               |
|----------------------------|--------------|---------------|
| ・日本雁を保護する会                 | 1997年～1998年) |               |
| ・校舎のない学校                   |              | (1998年)       |
| ・日本蜻蛉学会自然保護委員会マダラナニワトンボ部会  |              | (2001年)       |
| ・伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会         |              | (2005年～2016年) |
| ・喜多方ホタル夢づくり会               |              | (2006年～2007年) |
| ・蔵の里きたかたケナフの会              |              | (2006年～2007年) |
| ・博士山ブナ林を守る会                |              | (2008年)       |
| ・公益財団法人鎮守の森のプロジェクト         |              | (2012年～2016年) |
| ・特定非営利活動法人環境再生機構           |              | (2013年～2015年) |
| ・NPO 法人環境改善協会              |              | (2013年～2015年) |
| ・公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター |              | (2014年～2016年) |
| ・特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト |              | (2015年)       |
| ・NPO 法人森びとプロジェクト委員会        |              | (2016年～2016年) |



- ・ NPO 法人こころの森 (2016年)
- ・ NPO 法人リアスの森応援隊 (2016年)
- ・ NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議 (2016年)

## 【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ】

### ■アフアの森震災復興プロジェクト

一般財団法人C. W. ニコル・アフアの森と連携し、東松島市にて学校隣接の森の中に環境学習施設を取り入れた学校建設を支援いたしました。

### ■神社境内や社有地にある「鎮守の森づくり」の再生を支援

2015年度まで、近隣の住民を災害から守る防災林として、神社境内および社有地にある「鎮守の森」の再生を支援しました。東北においては、これまで986名の地域の皆さまにご参加いただき、計9箇所、累計16,433本の植樹を行いました。



2013年 宮城県 気仙沼一景島神社での植樹

## 【イオングループ各社】

### ■イオンが取り組む東北の創生

イオンは震災から1年後の2012年3月より、「3.11復興への願いをカタチに」を合言葉に、東北の農水畜産業の復興・活性化を継続的に応援するべく、東北の生産者の皆さまのご協力のもと、東北産原材料を使用した商品開発や、国内外のグループ店舗での東北フェアの開催等を通じ、東北産品の販売拡大を図っています。震災から5年となる2016年からは「にぎわい東北一つなげよう、ふるさとのチカラ」という新たな決意のもと、グループを挙げて「地域（ふるさと）の創生」に取り組んでいます。2016年度は、イオンのブランド「トップバリュ」や、お取引先さまとの協働による商品など約1,000品目を展開し、販売金額は500億円となりました。2018年度までに2,000品目の商品を展開し販売金額1,000億円を目指しています。イオンは今後も魅力あふれる東北の産品や地域を国内外のお客さまにご紹介し、東北の創生に向けてともに歩んでまいります。

### ■イオン 心をつなぐプロジェクト

イオンは、グループ従業員が一丸となり、さまざまな形で東北地域での環境・社会貢献活動に取り組んでいます。2012年からは労使一体で復興支援ボランティア活動などを進める「イオン心をつなぐプロジェクト」を開始しています。10年間で被災地沿岸部に30万本を植樹する目標を掲げており、「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」などを通じての植樹本数は、2017年6月末までに217,665本となりました。



2017年 第1回高田松原植樹祭



2017年 新地防災緑地植樹祭